

市町村及び河川の概要

1. 市町村等の概要	
1 都道府県名	長野県
2 市町村名	安曇野市
3 人口	96,249 人（令和 6 年 1 月 1 日現在）
4 面積	331.78km ²
2. 河川の概要	
1 これまで実施済みの関連施策 ※実施内容に応じて記載項目は適宜変更してください。 ・明科駅周辺地区都市構造再編集集中支援事業（H30～R4） 実施場所：龍門淵公園・あやめ公園 他 施策目的：明科が持つ自然や産業を活用したにぎわいづくり 事業期間：H30～R4 事業主体：安曇野市 整備内容：国土交通省が国道 19 号歩道整備を事業化したことを契機に明科駅周辺の活性化を目指して、平成 30 年度～令和 4 年度にかけて「明科駅前広場の整備」、国道 19 号の歩道整備にあわせた「国道 19 号の街路灯整備」、歩道空間の確保のため「まちなか道路整備」、龍門淵公園、あやめ公園の「公園の再整備」、公園への観光動線として「道路改良」、観光案内板「サインの整備」の 7 事業を実施しました。この事業により、犀川・前川沿いに位置する龍門淵公園・あやめ公園とまちなかをつなぐ動線や龍門淵公園内の親水エリアが整備され、地域のにぎわいづくりが進められています。 関連 URL：https://www.city.azumino.nagano.jp/soshiki/35/47556.html ・自然体験交流センター「せせらぎ」整備（信濃川水系犀川、H16） 実施場所：信濃川水系犀川 明科中川手地区 施策目的：環境教育、河川利用の促進 事業期間：H16 登録年度：H16 水辺の楽校プロジェクト登録 事業主体：安曇野市 整備内容：犀川沿いの御宝田遊水池は、白鳥が飛来する場所として県内外から多くの人を訪れます。その遊水池に隣接する場所に、自然体験交流センター「せせらぎ」を整備しました。この一帯を親水公園「水辺の学校」として、水害の歴史や湧水などの明科特有の豊かな自然環境を活用した自然体験・自然学習ができる場所となっています。 関連 URL：https://www.city.azumino.nagano.jp/soshiki/32/46461.html ・信濃川水系河川整備計画（信濃川水系犀川、H26～） 実施場所：信濃川水系犀川 施策目的：災害の防止、河川の適正利用と流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全 事業期間：H26～ 事業主体：国 整備内容：明科地域は犀川、高瀬川、穂高川の三川合流地点という特徴を持っています。本計画では、河川の洪水はん濫による浸水被害の軽減を図り、既設堤防の一部区間で高さ・厚さを増す築堤護岸工事を実施してきました。 水際には護岸の設置と併せて自然石や間隙の多い素材を用いた水制を設置することで、瀬・淵の再生など多様な長江の形成や、隙間が魚類の良好な生息・生育・繁殖環境となることが期待出来る、巨石等を用いた水制が設置されています。 関連 URL：https://www.hrr.mlit.go.jp/shinago/shinano-plan/plan/pdf/20221214_henkou/s2.pdf	

2 市民や民間事業者による河川利活用状況

・安曇野花火（8 月）

旧明科町の水郷明科花火大会と旧穂高町のわさび祭り前夜祭花火大会がひとつになり、2007 年から開催されている県内有数の花火大会です。花火は犀川のほとりで打ち上げられており、沿川から花火を楽しむことができます。

・水祭り お水迎え（5 月）・お水返し（10 月）

市内を流れる犀川、高瀬川、穂高川の三つの川が巡り合う合流地点で行われる神事です。三川合流地点で水を汲み神社へ奉納することで、安曇野を潤す水に感謝し五穀豊穡を願います。水は、安曇野の大地を潤し、農作物をはじめとした多くの生命の源でもあります。

「お水迎え」・「お水返し」は、この安曇野の宝である豊かで美しい水の恵みに感謝し、農作物の豊作や水難防止、観光の振興を祈願する神事です。

春の「お水迎え」では、三つの河川が合流する地点で川の水を汲み、神事を行います。汲んだ水は穂高神社にお神水として安置されます。秋にそのお神水を、犀川の源（梓川上流）に祀られている穂高神社の奥宮がある上高地の明神池に返す「お水返し」が行われます。

・信州安曇野あやめまつり・カヌースラローム大会「にじますカップ」（6 月）

毎年 6 月、あやめ公園の花菖蒲が見ごろを迎えることから、同公園を会場に「あやめまつり」が開かれ、ミニコンサートや出店などによるイベントが開催されています。また同時期には、龍門淵公園・あやめ公園を流れる前川で、カヌースラローム大会「にじますカップ」が開かれ、全国からカヌー愛好家が集います。

・安曇野薪能（8 月）

安曇野薪能は、国の無形文化財（総合指定）の認定を受けた明科出身の能楽師・青木 祥二郎がきっかけとなり、現在の安曇野薪能が行われるようになりました。龍門淵公園に設置される能舞台で、能や狂言、舞囃子が演じられ、夏の風物詩として定着しています。

その他にも、公園内では、前川で民間団体が開催するカヌー関連の大会として、様々な船が参加できる「安曇野カップ（9 月）」やジュニア向けの「ドラゴンゲート・U-18 カヌースラローム大会（8 月）」が開催されるほか、近年では地域団体が主催する「龍門淵さくらまつり」等、各種イベントが開催されています。



水祭り お水迎え



信州安曇野あやめまつり



安曇野花火



安曇野薪能

対象エリアの周辺図



3. かわまちづくりの方針

1 地域における課題、必要性

明科地域は小さなエリアでありながら、川・空・山の自然環境を有し、犀川・穂高川・高瀬川の三川が合流するという稀有な環境を持っています。これにより「水郷明科」として水と密接な関わりを持ちつつ、犀川沿いに形成された土地の中で「安曇野東の玄関口」としての歴史や里山文化を育んできました。しかし近年の状況を見ますと、明科地域は安曇野市の合併前旧町村単位の5地域で最も人口減少が著しい地域で、令和4年4月1日付で一部過疎指定を受けるに至りました。

特に明科地域は、他地域と比較して住民満足度が低く、高齢化率が高いことが実施した調査で明らかになっています。また、明科地域にはアウトドア資源はあるものの、継続して情報を発信する仕組みや、案内をするガイド人材が不足しています。

このような中で、当該エリアにはかわまちづくりを通じて「明科に関わる人」を増やし、「明科を誇りに思い、好きになる人」を増やすための総合的な仕組みが必要となっています。

2 市町村の地域計画や沿川地域のまちづくりの中での河川の位置づけ

安曇野市犀川×前川かわまちづくりは、安曇野市の関連計画で示すアウトドアスポーツの振興や観光の活性化等を推進するものであり、これら計画のもと、水辺空間を活かしたまちづくりを進めていきます。

・安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想（R6 年策定）

現状と課題を鑑みて安曇野市では、令和6年3月に「安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想」を策定し、明科地域のアウトドアに適した自然環境を生かした、新たなヒト、コト、モノの流れを生み出す「アウトドア拠点」の整備に向けたビジョンを定めました。

本構想では、前述した「人」を増やしていく仕組みを起点として、地域に「にぎわい」と「自然」と「歴史」を巡らせていくことを基本的な方針としています。（下図）

掲載 URL : <https://www.city.azumino.nagano.jp/uploaded/attachment/63560.pdf>

アウトドア拠点のコンセプト

人、自然、歴史が“巡る”

水郷のにぎわい合流拠点

基本方針 **1** 「にぎわいが巡る」かわまちづくり

基本方針 **2** 「自然が巡る」体験づくり

基本方針 **3** 「歴史・文化が巡る」人づくり

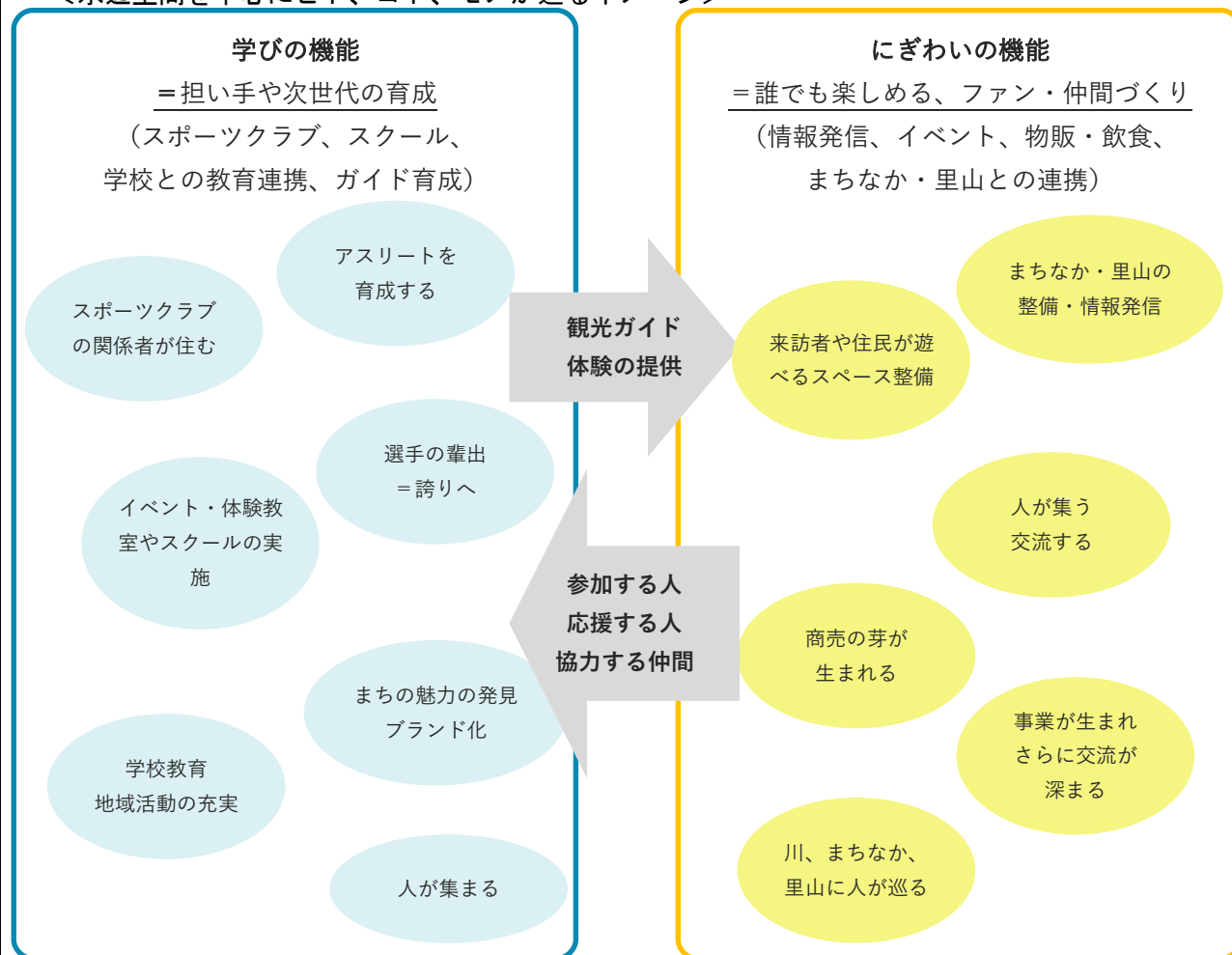


上記構想を踏まえ、安曇野市犀川×前川かわまちづくりでは、以下3点を基本方針とします。

1) 明科エリアの独自性を最も表す“犀川・前川”を中心とした賑わいづくり

明科地域の象徴である犀川・前川を、これまで川や水から縁遠かった子どもや親世代が水辺の楽しさと安全を学び、明科の魅力を見つけていけるような環境に整備すると同時に、前川については、カヌースラロームコースをアスリートの練習や大会にも利用しやすいように整備することで、より多くの人々が集い、楽しめる場所を目指します。同時に、アウトドア拠点と連携しながら、まちなかや里山の活動・アクティビティとも連携したイベントや情報発信等を展開していくことで、水辺空間を中心に人々がまちを巡り、地域全体で新たな出会いや活動が創出されていくことを目指します。(下図)

＜水辺空間を中心にヒト、コト、モノが巡るイメージ＞



2) 犀川・前川が多くの人に利活用される場所になるための“拠点”の構築

市東部アウトドア拠点整備基本構想の策定にあたり実施した住民ヒアリングで課題に挙げられたのが、犀川、前川は非常に高いポテンシャルを持ちながらも、地域の方は水辺の体験に馴染みが薄いという点です。

そのため、犀川・前川に隣接する「龍門淵公園・あやめ公園」に、アウトドア拠点を構築し、河川に親しむ企画や、人材育成、拠点の管理運営をする主体をおくことで、市民がより集いやすくなることを目指します。

3) まちなかや、里山を中心としたアウトドア資源との連携

明科エリアは、JR 篠ノ井線明科駅を中心に徒歩圏内で、まちなかを通して犀川・前川まで

アクセスすることができ、さらに車で 30 分以内の範囲で、歴史、里山、空のアクティビティに通じることのできる、非常にコンパクトなエリアです。

かわまちづくりでは、明科駅ーまちなかー龍門淵公園・あやめ公園（犀川、前川）までを「にぎわい合流ゾーン」と定め、一体的ににぎわいを創り出すための取り組みを進めます。また、まちから川への賑わいを起点に歴史、里山、空まで波及させていくことを目指します。

・第2次安曇野市総合計画（R5 年策定）

基本構想における将来ビジョン「自然、文化、産業が織りなす 共生の街 安曇野」のもと、基本構想で示す6つの目標について実施施策を整理し、5つの柱による価値創出プロジェクトを設定しています。柱の一つに「アウトドア・スポーツの聖地」があり、アウトドアスポーツ環境を整備し、安曇野を代表するコンテンツの確立と、観光案内や交流活動の促進を図ることとしています。

掲載 URL : <https://www.city.azumino.nagano.jp/uploaded/attachment/57367.pdf>

価値創出プロジェクト

誰もが活躍する共生のまち

- ・年齢、性別（性自認・性的指向）、国籍や障がいの有無などの多様性を尊重します。
- ・様々な人の活躍を促すことで、まちにさらなる活気を生み出します。

アウトドア・スポーツの聖地

- ・豊かな自然を生かしたアウトドア・スポーツ環境を整備し、安曇野を代表するコンテンツとしての確立を目指します。
- ・アウトドア・スポーツを通じた観光振興や交流活動の促進を図ります。

選ばれ続けるまち、安曇野

- ・子育て世帯や移住者にとって魅力ある生活環境・就労環境を整備します。
- ・人口減少対策を講じるとともに、人口減少に適応した地域をつくります。

文化・芸術中核都市の実現

- ・安曇野市の文化・芸術環境を活かした教育を推進します。
- ・文化・芸術活動を通じた交流人口を創出するとともに、市内での文化・芸術活動を活性化させます。

AZUMINOブランドの発信

- ・安曇野市の魅力・価値を戦略的に国内外に向けて発信します。
- ・安曇野市での体験で得られる付加価値を創出します。

引用：第2次安曇野市総合計画後期基本計画

・安曇野市都市計画マスタープラン（R3 年改定）

「山岳と田園が育むよさを大切に、暮らしやすさをみんなで共有・継承できるまち」を目標とし、既存市街や集落周辺への集約重視のまちづくりを進めています。

明科駅を中心とした拠点市街地周辺は、複数の幹線道路が結節する交通の要衝であると共に、周辺には河川や森林等多様な環境を活用した体験型レクリエーション等の地域資源が豊富であることから、水辺や森林の魅力と親しめる地域づくりを目指しています。

掲載 URL : <https://www.city.azumino.nagano.jp/uploaded/attachment/46595.pdf>



引用：安曇野市都市計画マスタープラン

・第2次安曇野市観光振興ビジョン（R5年策定）

本ビジョンでは、『また行きたい、選ばれ続ける観光地 安曇野～期待され、信頼される観光地づくりを目指して～』を掲げ、安曇野市の課題である通過型観光を滞在型観光に転換し、地域経済の好循環化を図られることを目指しています。重点的に実施する3つのプロジェクトの中に、「安曇野でアウトドア満喫プロジェクト」を設定し、安曇野市の魅力ある自然や歴史文化などを活かして、「点」から「線」へとつなげ、アウトドアを軸とした安曇野市らしい滞在型観光の推進を目指しています。

掲載 URL : <https://www.city.azumino.nagano.jp/uploaded/attachment/56918.pdf>

重点プロジェクト 2

安曇野でアウトドア満喫 プロジェクト

背景

日本屈指の人気を誇る山岳の麓に立地し、多彩な観光資源を有していますが、人気スポットに「点」で立ち寄る観光スタイルが主になっていて、滞在時間が短く、立ち寄り地点にとどまっていることが課題です。市内の観光移動を「点」から「線」に変えていく必要がありますが、複数要素を組み合わせた安曇野市の楽しみ方の提案が十分でないことが要因に挙げられます。

概要

- 世界的な観光の潮流や新型コロナ収束後の観光需要に対応するため、地域の魅力ある自然や歴史文化などを活かして「点」から「線」へとつなげ、インバウンド※にも対応したアドベンチャー・ツーリズム※が体験できる、アウトドアを軸とした安曇野市らしい滞在型観光を推進します。
- アウトドアを用いた安曇野市の魅力向上や、旅行商品の高付加価値化により、他地域との差別化を図ります。

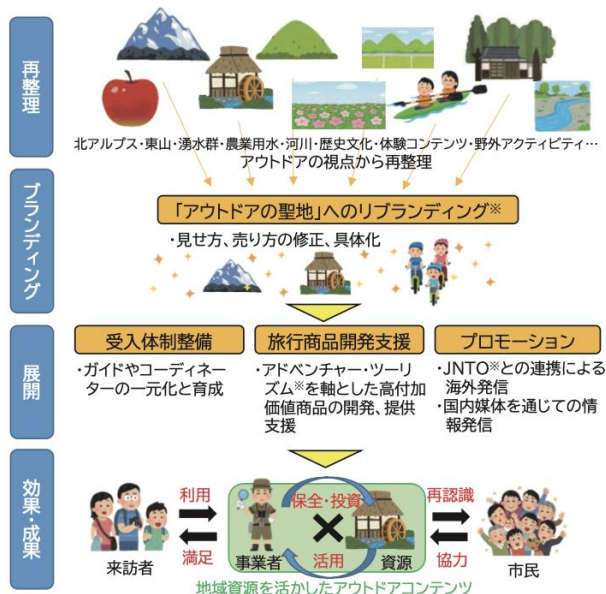
狙い

地域資源・観光資源をアウトドアとして活用・展開することで来訪者の滞在時間の延長を図り、さらに地域全体で安曇野市の自然、文化、歴史、暮らしの価値を再認識し愛着を深め、次世代へつなげる持続可能な観光地づくりを目指します。

実施内容

- 北アルプス・東山・湧水群・歴史文化・体験型コンテンツ・野外アクティビティなど、アウトドアという観点での、訴求力のある地域資源・観光資源の再整理
- 各種ガイドやコーディネーターの整理と育成による来訪者受入体制の整備
- アドベンチャー・ツーリズムを軸とした付加価値の高い旅行商品の開発支援
- JNTO※や県との連携、媒体活用による「安曇野市＝アウトドア」のプロモーション

◇ 重点2「安曇野でアウトドア満喫プロジェクト」の展開



引用：第2次安曇野市観光振興ビジョン

・安曇野市過疎地域持続的発展計画（R4年策定）

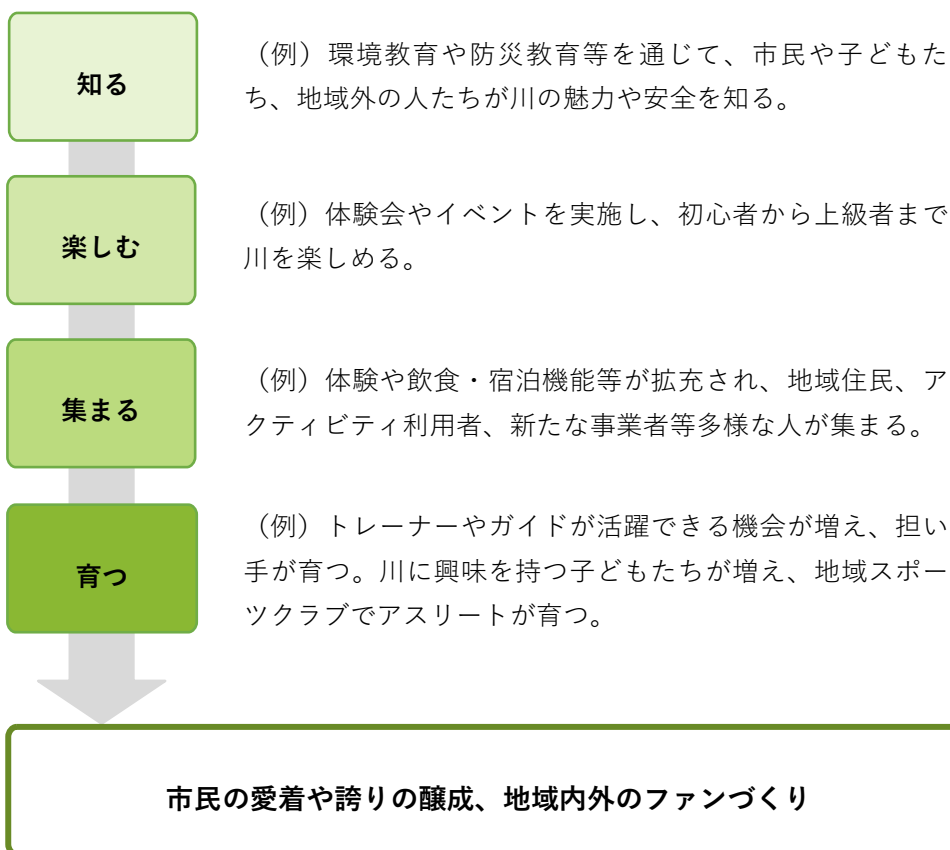
「龍門淵とあやめ公園は地元住民や観光客が集う憩いの場所であり、カヌーやラフティング、まちあるきの拠点として機能強化を図る」、「豊かな自然環境を活用し、アウトドアスポーツを重点的に推進する」等を示しています。

掲載 URL : <https://www.city.azumino.nagano.jp/uploaded/attachment/59553.pdf>

3 地域活性化や賑わいあるまちづくりに対する市町村や民間事業者の考え方

明科地域では、地域を盛り上げていくために組織された団体、地域の産品を生かすための取り組みをする団体、明科の水辺を盛り上げるための団体などが活動しています。そこで、本市では、「安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想」の策定の際に、関連団体や事業者、住民等を募り、明科地域の魅力や今後取り組むべきこと等を議論するワークショップを実施しました。そこで多くの方々が、明科地域は小さなエリアでありながら、川・空・山の自然環境を有していることを圧倒的な強みであると考えており、それらを生かしたにぎわいあるまちづくりによって、市民が地域に愛着や誇りを持つこと、外から来る人にファンになってもらうことを望んでいることが分かりました。

＜かわまちづくりに対する期待＞



4 地域活性化や賑わいあるまちづくりに資する定量的目標

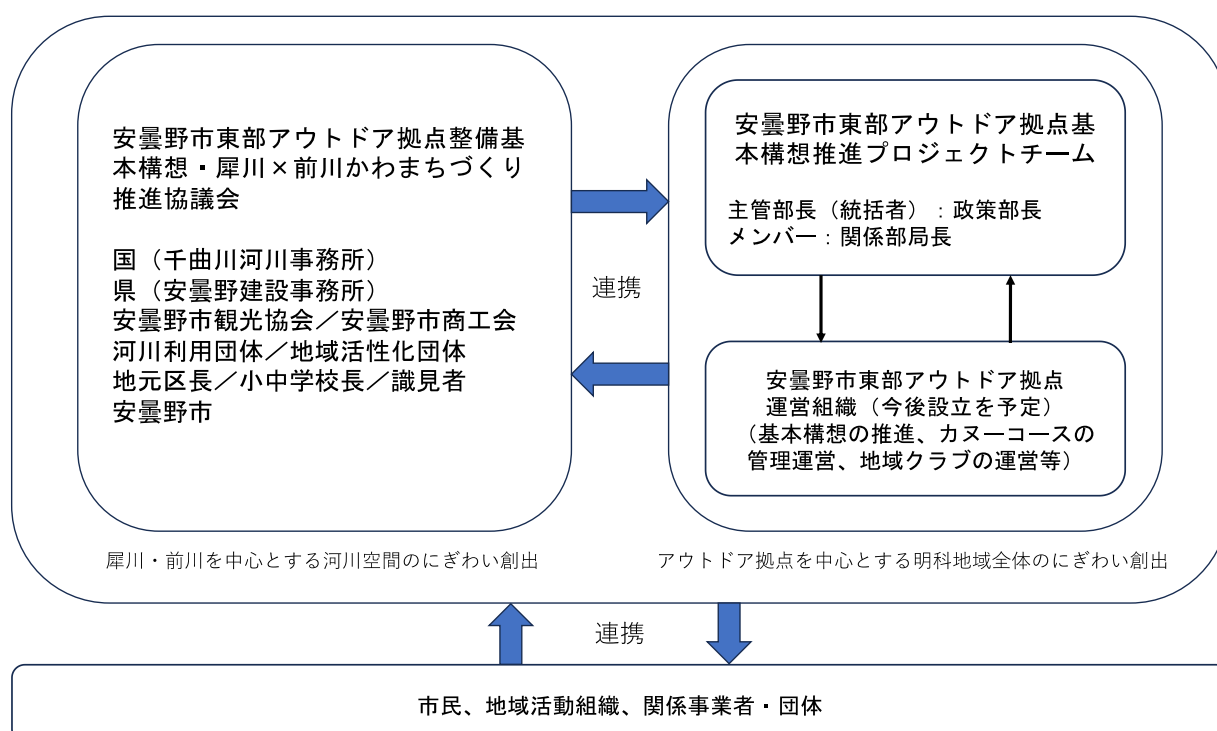
指標	従前値	目標値 (令和 9 (2027) 年度)	設定の考え方・測定方法等
龍門淵公園・あやめ公園利用者数	56,800 人* ¹ (H25 年)	90,900 人	- かわまちづくり対象範囲内の龍門淵公園・あやめ公園の年間利用者数。 - 第 2 次安曇野市観光振興ビジョンで目指す観光地延利用者数を参考に目標値を設定。 - 公園管理者から月別の記録を収集し合計する。
水辺空間でのイベント開催数	6 回* ² (R5 年)	12 回	- 水辺空間の年間のイベント開催数。 - 現在は龍門淵さくらまつりとあやめ祭り等の 6 回であるが、アウトドアイベントやマルシェを定期的実施するなどにより、年間を通じて水辺でイベントが開催される状況を目標として設定する。
明科駅の年間乗車人数	282,150 人* ³ (R4 年)	294,700 人	- R4 年度の明科駅の乗員数及び第 2 次安曇野市観光振興ビジョンで目指す観光地延利用者数を参考に目標値を設定。 - JR 明科駅から月別の記録を収集し合計する。
明科地域の市民生活満足度 (「満足している」「やや満足している」の回答率)	66.6%* ⁴ (R4 年)	75%	- 市域全体と同水準を目標値として設定する。 - 安曇野市が毎年市民を対象に実施する市民意識調査より集計する。

- * 1…長野県平成 25 年観光地利用者統計調査より
- * 2…令和 5 年度公園占用許可申請があったオープンイベントの数
- * 3…ＪＲ東日本「各駅の乗車人員 2022 年度」の 1 日平均の乗車人員より算出
- * 4…安曇野市令和 4 年度市民意識調査より

4. 推進体制・取組内容

1 協議会、運営組織等の体制（図）

安曇野市犀川×前川かわまちづくりを推進するためには、河川管理者である国や県と安曇野市が連携するとともに、関係事業者・団体や市民、地域活動組織の理解・協力を得ながら取り組むことが不可欠です。そこで、「かわまちづくり推進協議会」を設立し、水辺空間のにぎわいに関わる団体や利用者等の意見を幅広く聴取できる推進体制を構築します。また、「安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想」の推進組織とも連携しながら、まちなか・河川が一体となって明科地域全体のにぎわいを生み出していくことを目指し、以下に示す推進体制を検討します。



2 地域活性化や賑わいあるまちづくりに資する多様な関係者との連携・取組内容

安曇野市犀川×前川かわまちづくりでは、水辺空間を利用したイベントの開催や子どものアウトドア教育、人材育成等、多様なソフト施策を展開していくことで、水辺空間のにぎわいを生み出すことを目指します。これらの施策の効果を最大化するために、地域活動団体や飲食、観光、商工業等関係事業者らと意見交換をしながら、連携して取り組んでいきます。

また、特に子どもの教育については、明科地域を持続可能な地域としていくために、地域の子どもたちに明科を好きになってもらい、誇りに思ってもらうことが大切です。アウトドア拠点を中心として、地域の学校や地域クラブ等と連携しながら、地域の魅力を知る環境教育や水辺の安全を学ぶ防災教育を行うなど、地域の子どもたちを巻き込む機会を創出していきます。

5. 安全な河川利用に向けた取組

- ・ 河川利用者の安全確保に向けて、以下の者が、運営組織のメンバーに参画し、安全面での指導及び安全確保を行う体制を確保します。
 - ・ 水難救助に関する資格を有する者（日本赤十字社の救助員Ⅰ養成講習 等）
- ・ 各種パドルスポーツの発着地点として活用されている東部アウトドア拠点周辺の犀川河岸について、安全性をより高めるための親水（階段）護岸、巨石水制の延伸などの整備を行います。加えて、これまで河川を安全に利用するためのルールづくりを行います。

6. 都市・地域再生等利用区域の指定に関する取組

- ・ かわまちづくり推進協議会において、河川区域内（憩いエリア①を想定）での事業者による営業活動内容等を確認し、必要に応じ、都市・地域再生等利用区域の指定も視野に検討を行います。
- ・ 犀川・前川沿川の龍門渚公園は都市公園に指定されています。安曇野市犀川×前川かわまちづくりの推進において公園の利用条件や規制緩和が必要な場合は、適宜、公園管理者、河川管理者をはじめ、各関係者や有識者等と意見交換をした上で、条例の改正等検討していきます。

7. 生物の生息・生育・繁殖の場の保全・創出に関する取組

- ・ 各種パドルスポーツの発着地点である犀川河岸の水流を緩和するための巨石水制の延伸整備では、瀬・淵の形成による生物の生育・生息・繁殖環境の創出を目指します。加えて、そこで市民や子どもたちの環境教育や自然観察を行える空間として環境を整えることで、利用促進を図ります。

1. 河川名

- 1 信濃川水系一級河川 犀川
- 2 信濃川水系一級河川 前川

2. 提案事業の実施範囲

安曇野市犀川×前川かわまちづくり計画の実施範囲は、犀川・前川における、龍門淵公園・あやめ公園の北端から南端までの区間を対象とします。地域全体でにぎわいを創出していくために、まちなかや水辺の学校、長峰山や旧国鉄篠ノ井線廃線敷周辺、及びウォーターアクティビティの出発点として活用されている上流部を関連エリアとして、一体的にソフト施策を展開していきます。



3. 提案事業の概要

1 にぎわいを生み出すイベントの開催

来訪者が水辺空間でより長い時間、充実して過ごすことができるよう、龍門淵公園・あやめ公園内の憩いエリアを活用したイベントを開催します。河川や公園の魅力を活かしたアウトドアイベントや、キッチンカーやオープンカフェを活用した飲食イベント等を想定しています。

その際、必要に応じて河川や都市公園の利用条件・規制緩和や社会実験も検討していきます。
(ソフト施策のイメージ (例))



各種イベント（アウトドアイベント、マルシェ等）の開催



自然体験・環境教育

(引用：千曲川河川事務所「千曲川だより」)



アクティビティ体験（リバーサーフィン・SUP等）

2 ウォーターアクティビティ環境を活かした教育・人材育成

前川は、カヌーのゲートや障害物が設置されており、カヌーの練習や複数のスラローム大会・イベント等に利用され、全国から競技の愛好家が集まってきます。この環境を生かして、体験会や交流会等の各種イベントを開催し、カヌー競技者もそうでない方も楽しめる場を創出すると同時に、民間事業者や地域の学校等と連携しながら、地域の子どものアウトドア教育、アスリート・トレーナー人材の育成等を行い、今後地域で活躍できる次世代を発掘・育成する場にしていくことを目指していきます。

(ソフト施策のイメージ (例))



体験教室・アスリート育成

3 まちなか、里山と連携した一体的な情報発信

明科地域は、小さなエリアの中に多様な自然・歴史資源が点在しており、様々なアウトドアアクティビティや歴史・文化を感じる体験を楽しむことができます。また、まちなかでも、地域の活動団体等によって明科を盛り上げるためのイベントが展開されています。これらの回遊性を高めていくために散策マップ・案内板の作成や市や観光協会等の関連団体のホームページ・パンフレットによる情報発信を検討していきます。

(ソフト施策のイメージ (例))



関連団体との連携イベントの開催

(10月 安曇野 APPLE HALLOWEEN)



地域内の観光スポットと連携した情報発信

(参考) 位置図

犀川・前川・親水エリア：

- ウォーターアクティビティ体験（カヌー、カヤック、ラフティング、リバーサーフイン、SUP等）
- カヌーコースを活用したアスリート育成・大会の開催
- 地域の子どもたちに向けた水辺の安全教育・環境学習

まちなか：

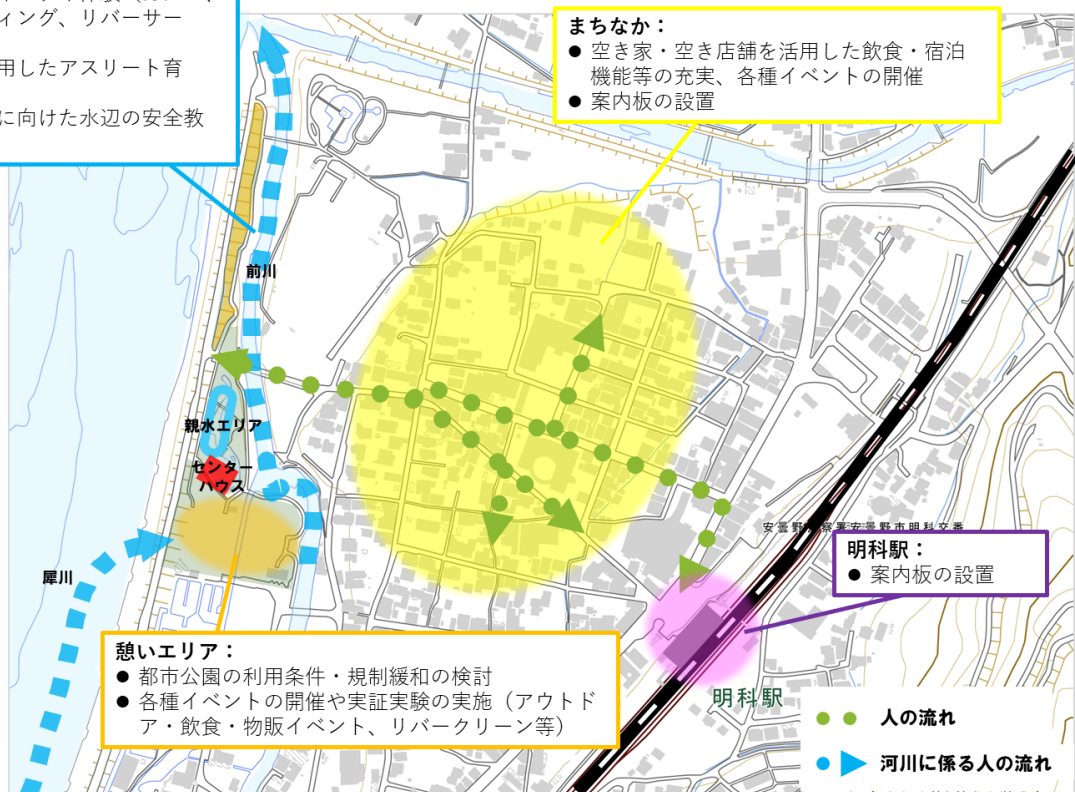
- 空き家・空き店舗を活用した飲食・宿泊機能等の充実、各種イベントの開催
- 案内板の設置

憩いエリア：

- 都市公園の利用条件・規制緩和の検討
- 各種イベントの開催や実証実験の実施（アウトドア・飲食・物販イベント、リパークリターン等）

明科駅：

- 案内板の設置



ハード施策の個別整備計画書

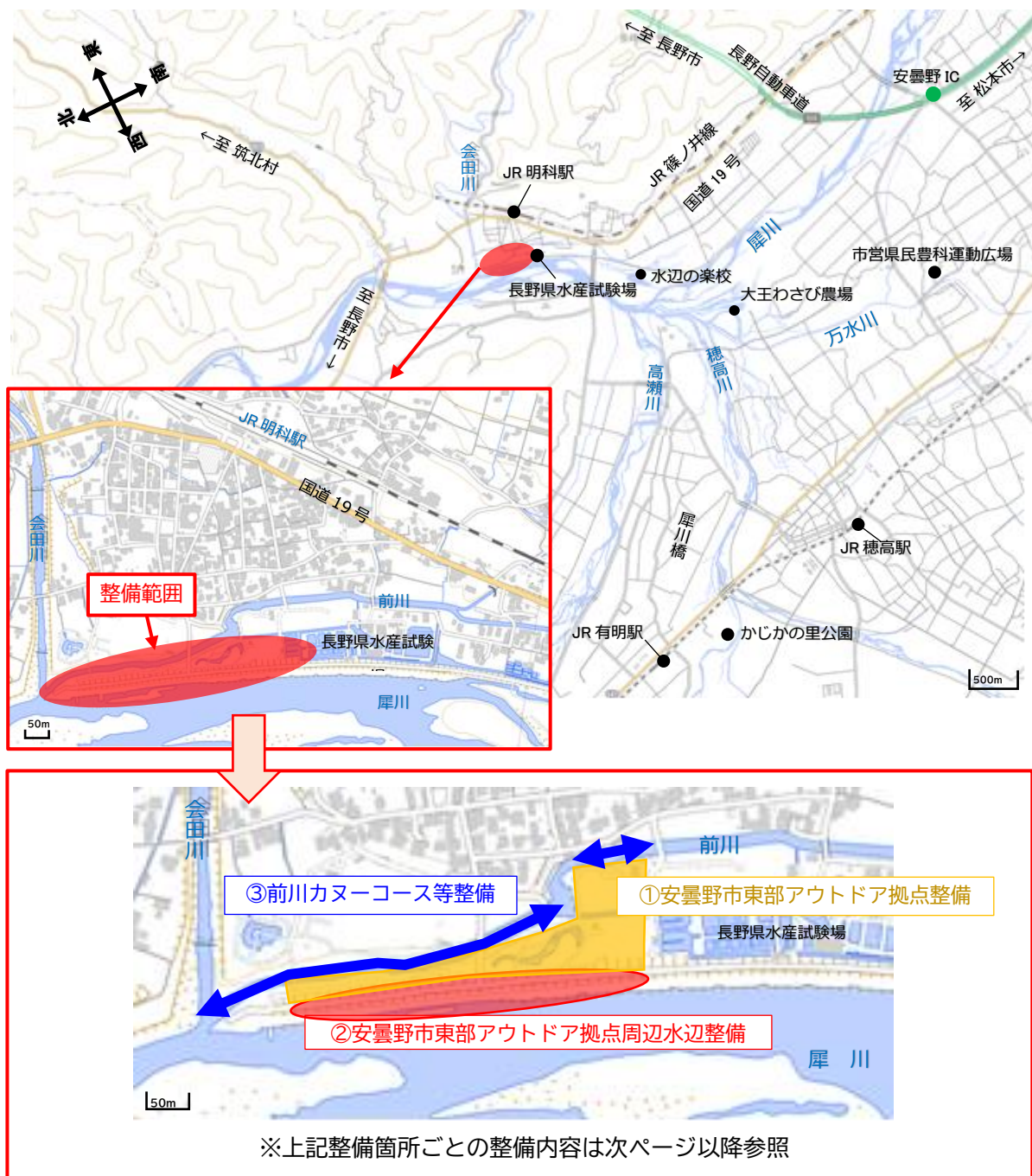
1. 河川名

- ① 信濃川水系一級河川 犀川
- ② 信濃川水系一級河川 前川

2. 整備範囲

犀川「犀川橋」から犀川・会田川・前川合流点付近
（龍門洲公園・あやめ公園（長野県安曇野市）周辺）

（全体位置図）

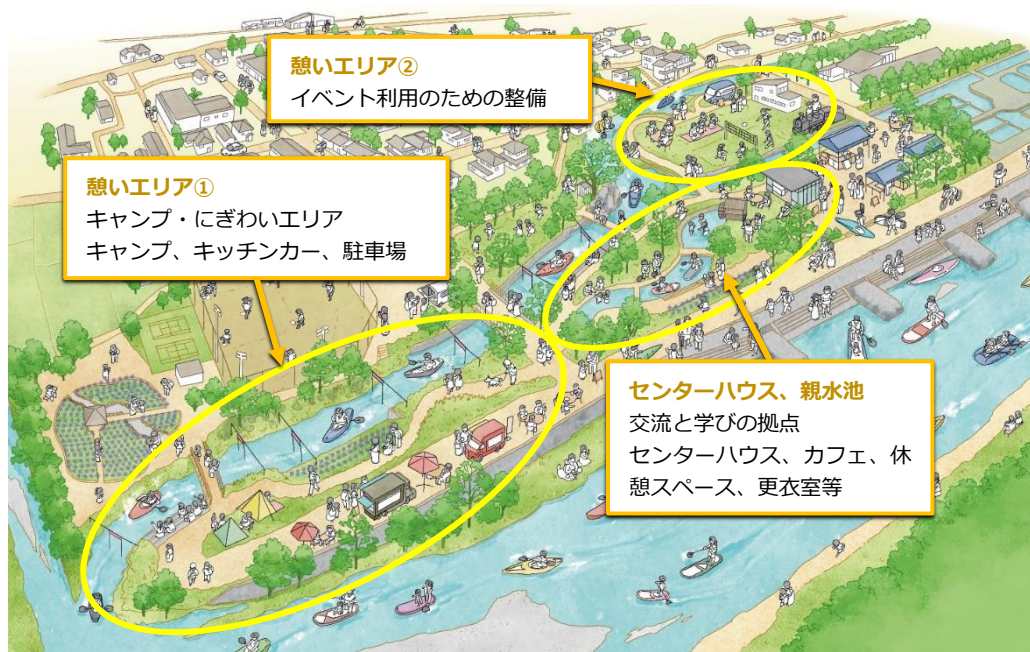


3. 整備内容

①安曇野市東部アウトドア拠点整備

安曇野市明科地域にある龍門淵公園は、犀川を下るラフティングの終着地点のひとつとなっています。また、龍門淵公園内を流れる前川はカヌーのコースが整備されており、市内外から多くの人がカヌーをするために訪れ、ウォーターアクティビティの拠点として、ツアー客や市内外のアウトドア愛好家に活用されています。そこで、より利便性の高い拠点とするため、安曇野市では同所にアウトドア拠点の整備を目指します。

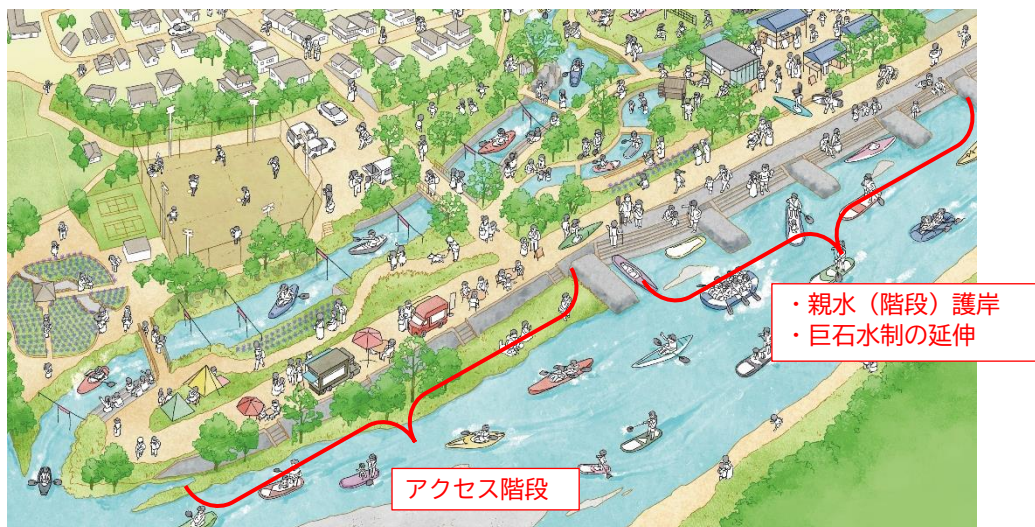
- ・拠点施設（センターハウス、倉庫、カフェ、シャワー、更衣室等）【市】
- ・公園内親水池の拡張【市】
- ・キャンプエリア【市】
- ・イベント等に活用できるオープンスペース【市】
- ・既存アクセス道の改善整備【市】
- ・案内サイン【市】
- ・駐車場【市】



② 犀川…犀川橋から犀川・前川・会田川合流点
「安曇野市東部アウトドア拠点周辺水辺整備」

各種パドルスポーツの発着地点として活用されている東部アウトドア拠点周辺の犀川河岸について、利便性と安全性をより高めるための親水（階段）護岸、巨石水制の延伸などの整備を行います。これにより水辺と拠点との一体としての利活用の向上や、水衝部の緩和と併せ瀬・淵の形成による生物の生息・生育・繁殖環境の創出を図ります。

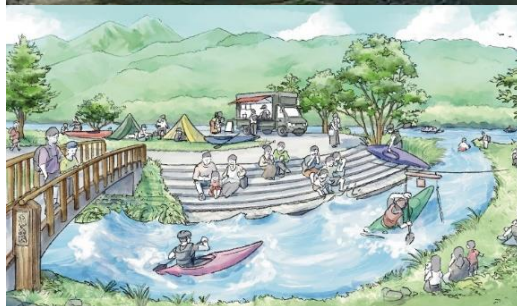
- ・犀川親水（階段）護岸、巨石水制の延伸【国】
- ・犀川・前川合流点親水護岸【県・市】



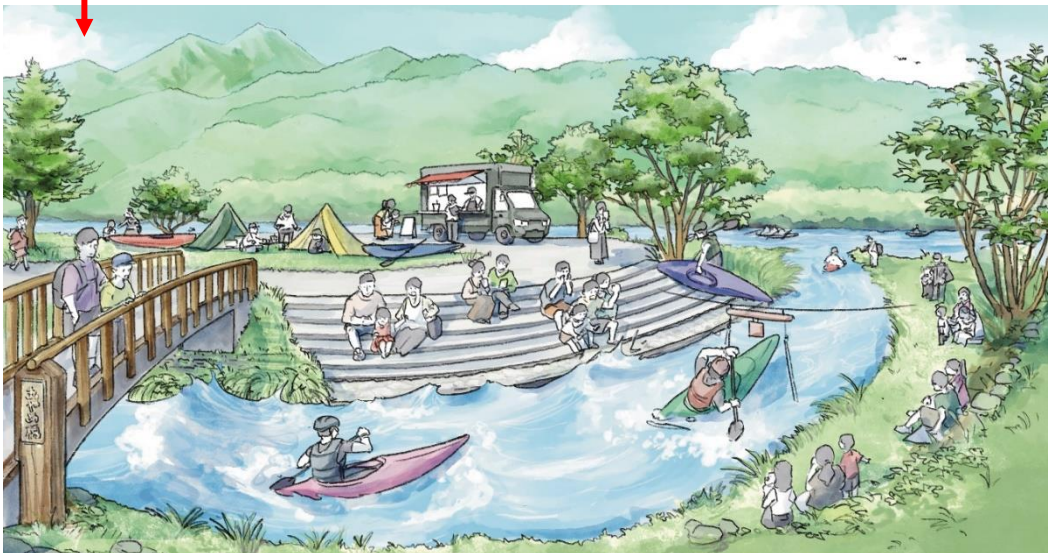
③ 安曇野市立明科南認定こども園東側から犀川・前川・会田川合流点 「前川カヌーコース等整備」

龍門淵公園・あやめ公園内を流れる一級河川・前川のカヌースラロームコースは、全国のカヌー愛好家には知名度の高いコースであるものの、コースのレベルとしては初級者向けに留まっています。そこで、よりレベルが高く幅広い競技に対応できるコースへと整備・改修を行います。

- ・カヌーコース整備【市】
- ・サーフウェイブ用堰整備【市】
- ・親水護岸の整備【県】



・整備のイメージ（パース絵）



4. 整備の実現方策

・関連事業の整備計画

本かわまちづくり計画の計画区域においては、「安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想」が策定されており、当該事業との一体的な整備により、親水性を活かした魅力的な水辺等環境空間の創出を図ります。

・整備工程

※スケジュールに関しては、現在調整中です。

種別	事業主体	事業内容	R6 年度 -2024	R7 年度 -2025	R8 年度 -2026	R9 年度 -2027	R10 年度 -2028
拠点施設	安曇野市	【拠点施設】 ・拠点施設・駐車場 ・案内サイン	調査・設計			整備工事	供用開始
	安曇野市	【公園内】 親水池改修・井戸掘削					
	安曇野市	【公園内】 憩いエリア（キャンプ・催事スペース等）整備	調査・設計			整備工事	供用開始
水辺整備	安曇野市	【前川】 カヌーコース改修 サーフウェイブ設置	調査・協議・設計	改修工事		供用開始	
	長野県	【前川】 親水護岸整備			調査・設計	整備工事	供用開始
	国土交通省	【犀川】 親水護岸		調査・設計	整備工事	共用開始	
	国土交通省	【犀川】 アクセス階段			調査・設計	整備工事	共用開始
	国土交通省	【犀川】 巨石水制（延伸）		調査・設計	整備工事	共用開始	

5. 多自然川づくりに関する事項

犀川及び前川に設置する親水護岸については、水理特性、背後地の地形・地質、土地利用などを十分踏まえた上で、必要最小限の設置区間とし、生物の生息・生育・繁殖環境と多様な河川環境の保全・創出を図る適切な工法とする。

水制工の延伸により、流れの緩いたまりをつくることで、自然再生における瀬・淵の創出という役目も果たしていく。

6. その他特筆すべき事項

今回の整備箇所については、龍門淵公園・あやめ公園の前川を中心にウォーターアクティビティの愛好家には認知度も高く活用もされています。しかしカヌーコースについては、先の東京 2020 オリンピック大会の際にホストタウン合宿を誘致しようとしたしましたが、コースの難易度が低いことを理由に誘致が叶いませんでした。

また、年 2～3 回カヌー大会が開かれているものの、地元の住民にとっては道具や指導環境の不足等により、ウォーターアクティビティへのなじみが薄い状況です。外部からの認知度に対し、地元民による活用が低い現状も伺えます。

そこで本計画により、治水上及び河川利用上の安全・安心を確保しつつウォーターアクティビティの利便性を高めることにより地域の賑わいを創出すること、また地元住民にとって水辺がより身近なものとなり、さらには地域の誇りとなる場を形成したいと考えます。

今回の計画地は JR の駅や市街地にも近く、まちの空間と融合する河川空間の創出につながるものと期待されます。

維持管理計画書

1. 継続的な有効利用に関する計画
・すでに都市公園として親しまれている場所を活用した拠点整備であり、今回の整備を通じよりウォーターアクティビティの拠点としての利用増加が期待される。 ・JR明科駅に近い地域であり、駅前周辺の活性化に取り組む団体等も活動していることから、これら団体と協力し利活用の幅を広げていく。 ・龍門渚公園・あやめ公園では年に数回地域のイベントが開催されており、これら催事と連携しながら四季折々のイベントを随時開催し、地域交流に寄与する。 ・カヌーコースの整備により、インバウンドや海外選手の受入体制も整えたいと考えており、グローバルな人材育成、地域の学校とも連携した子どもたちの体験・教育にも寄与する。
2. 維持管理計画
・施設の維持管理については、施設管理者が行う ：国土交通省（犀川護岸） 安曇野市（アウトドア拠点、龍門渚公園・あやめ公園、前川カヌーコース） 長野県（前川護岸） ・アウトドア拠点施設、公園、カヌーコースの日常的な管理、清掃等については、令和6年度から施設の運営管理を行う母体となる組織の組成に取り組むこととしており、新たな運営体による管理運営を研究する。 ・当面の日常的な施設管理、清掃等については、整備箇所が既存の都市公園等の活用が主であることから、現状を引継ぐものとする。